

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営上溝団地特定事業に係る建設工事(2工区)E4棟	階数	地上3F
建設地	相模原市中央区光が丘三丁目5685-10の一部	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	120人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年8月 予定	評価の実施日	2025年7月25日
敷地面積	3,197 m ²	作成者	株式会社市浦ハウジング&プランニング東京支店
建築面積	1,034 m ²	確認日	2025年7月25日
延床面積	2,210 m ²	確認者	株式会社市浦ハウジング&プランニング東京支店

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項	
総合	日本住宅性能表示基準 断熱等性能等級4を超える性能を有し、潜熱回収型給湯器を導入するなど省エネルギーに配慮している。建物利用者が自然に親しめるようにコミュニティ花壇を設ける等、生物環境の保全と創出にも取り組んでいる。
その他	-
Q1 室内環境	日本住宅性能表示基準 断熱等性能等級4を超える性能を有し、外皮性能に配慮。建築材料は、F☆☆☆☆を全面的に使用し、室内空気環境に配慮している。
Q2 サービス性能	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たし、居住者の生活環境の向上に配慮した。躯体は劣化対策等級3相当とし、更新間隔の長い室内仕上げや耐用年数の長い配管材を採用し、建物の長寿命化に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺のまちなみや景観に対して充実した取り組みをおこない、地域性・アメニティへも配慮している。建物利用者が自然に親しめるようにコミュニティ花壇を設ける等、生物環境の保全と創出にも取り組んでいる。
LR1 エネルギー	断熱性能を省エネルギー対策等級4を超える性能とし、潜熱回収型給湯器を採用することで省エネルギーに配慮している。また、太陽光発電設備を導入し、一次エネルギー消費性能を高めている。
LR2 資源・マテリアル	持続可能な森林から産出された木材を積極的に採用し、脱炭素化と地球環境に配慮している。化学物質排出把握促進法の対象物質を含有しない4種類の建材を使用し、汚染物質含有材料の使用回避に配慮している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される